



参画だより

No. 34

2008.3.31

弘前市民参画センター

ママが好き
手伝うパパは
もっと好き

作者コメント 北山まみどりさん（北野岸柳のウエンスディ句会）

男女共参画社会と言われながらも男は外、女は家という考え方がまだ残っていると思われ、子育て中の母親のかかえるストレスや不安は、大変多いと思います。父親が子育てに協力したり奥さんをいたわること、よりあたたかい家庭を築くことができると思います。

弘前市民参画センター事業紹介「ひとにやさしい社会推進セミナー」など P2・3

まなぼ「暮らしと女性学」レポート3 P4

おとこの気持ち聞いちゃいました「仕事も家事も2人で!!」 P5

さんかくひとりごと「平等？差別？区別？なに？」 P5

男女・^{グループ}団体紹介「きゅうさんの畑」 P6

利用団体紹介「ウィークエンド囲碁クラブ」 P7

本の紹介「苦しみの中でも幸せは見つかる」 P8

改正パートタイム労働法のポイント P8



クローバーの押花作品

※ 6 ページで紹介している「きゅうさんの畑」の作品です

ひとにやさしい社会推進セミナー

思いの実現へチャレンジする女性たち

平成19年10月24日と12月1日、男女共同参画社会への理解と認識を深めてもらう「ひとにやさしい社会推進セミナー」が開催されました。さまざまな分野で活躍している女性たちが、自分の思いを実現する原動力や、活動続ける秘訣、津軽の風土と女性のもつ魅力などについて語りました。



葛西ひろみさん



一條敦子さん

10月に市民参画センターで開かれた第3回セミナー「思いを実現するひとたち」では、前川國男の建物を大切にすることを

ト「弘前で出会う前川國男」などを振り返り「建物に感動して始めたことが、賛同者にも支えられて少しずつ広がってきた。今後は財源の問題もあるが、本来の目的である木村産業研究所の保存と活用に向けて活動を続けていきたい」と抱負を話しました。

一方、一條さんはPTA活動や大学院への社会人入学などを経て子育て支援に携わるようになり、助成金を得ながら活動を続けてきました。その経験から、助成金獲得を目指すグループに「仲間よく話し合って、何を指すかという共通理解の元に動いていくことが大事。グループとして成長していく関係を築かないと、助成金を得ても継続した活動はできない」とアドバイスをしました。



清水典子さん（左）と九戸眞樹さん

12月の第4回セミナー「いつだってチャレンジ適齢期!!」は、弘前駅前市民ホールで開催されました。「自分らしく働き、自分らしく生きる」と題して講演した清水典子さんは、元陸奥新報論説委員で現在はフリーライター。昨年の春、結婚後28年間暮らした弘前市を離れ、東京都へ活動の拠点を移しました。

講演では、青森県を離れてあらためて津軽の暮らしの豊かさを感じたということや、14年の記者生活を通して知ったさまざまな女性たちの魅力的な生き方を紹介し、「どういう生き方がいいというのはなく、自分にとって何がもっとも大事かという最優先事項を考えて暮らすことが『自分らしく生きる』ということだと思う」と話しました。

講演に続き、青森県中南地域県民局長の九戸眞樹さんをゲストに、清水さんと「東京から見た青森の魅力」について語り合いました。九戸さんが県の東京事務所長を務めていたころのエピソードも交えながら、「青森県の農産品や、ブナコ、津軽塗などの工芸品は本当に手をかけてつくっている。手をかけたものは、価値のあるものとしてどんどん世界に出していける」と話すと、清水さんは「農業は自分の知恵でいろんな展開ができる。津軽だ、県南だとかではなく、地球全部がお客様、というおおらかな気持ちで発信できればいい」と、青森県産品の可能性について提案しました。



白川弘子さん
(青森県消費者協会
常務理事)

記念講演「地域社会を豊かにするために〜ひとりひとりのお声かけと見守りで〜」では、青森県消費者協会の白川弘子さんが、高齢者をねらうさまざまな悪質商法の手口や、県内で実際にあった消費者被害の例を挙げ、「現代の希薄な人間関係も被害が発生するひとつの要因」と話しました。また、

第4回 市民参画センター交流まつり

平成19年12月9日、「第4回市民参画センター交流まつり」が開かれ、会場の市民参画センターに多くの人が訪れました。年に一度開催されるこの交流まつりは、センターを利用している団体が自分たちの活動を紹介し、ほかの団体や市民との

交流を図る場となっており、今年は24団体が参加しました。



交流まつり終了後の交流会。
お茶とお菓子を囲んで話も弾みました。

被害を防ぐための心構えや、被害に遭ってしまったときの対処法を紹介し、「何か変だと思ったら、消費生活センターなどへまず相談してください。学んだことを近所でも広めれば、地域でお互いに見守るという役目も果たしていけるので、ご協力をお願いします」と呼びかけました。

講演に続いて、詩の朗読や成年後見制度のビデオ上映、つみ木遊びなどが行われたほか、参加した各団体を紹介するパネルが展示され、来場者はさまざまな団体の活動に理解を深めていました。

さんかくネットつどいの広場

平成19年11月23日、今年度2回目の「さんかくネットつどいの広場」が開かれました。この「つどいの広場」は、子育て中の家族への育児情報や交流の場の提供と、子育てサポートシステム「さんかくネット」サポーターに対する研修の目的で開かれています。

今回の広場では、弘前市で体操教室を開いている成田秀子さんを講師に、約20組の親子が体操遊びを楽しみました。

成田さんは、子どもの年齢や筋力に合わせて、すわったままでもできる運動や、ドーナツ型のクッションをくぐったり跳び越えたりと、遊びながら筋力のトレーニングにもなるような運動を指導しました。初めのうちはなかなかできなかった子どもも、繰り返しやるうちにできるようになるなどの光景もみられました。

この日はさんかくネットの子育てサポーター



飛行機になってバランストレーニング

のほか、市内の大学生のサークル「さくらボランティア」のメンバーと弘前実業高校の生徒も参加し、遊具やマットを使った運動のサポートをしました。

集まった子どもたちは会場を元気よく走り回ったり、跳びはねたりと楽しく体を動かしていました。

まなぼ

「暮らしと女性学」レポート 最終回

「暮らしと女性学」と題して、2006年5月から4回連続座を開催しました。講師はさいたま市男女共同参画推進センター事業コーディネーターの下村美恵子さんです。その報告書の中からシリーズで紹介します。

「ジェンダー」ってなに？

◇「ジェンダー」について考える

一般にジェンダーというと、「男らしさ」、「女らしさ」という社会的文化的に形成された性差であると説明されます。社会や家庭において、「男は男らしく」「女は女らしく」と要求され、期待されて育つ結果、男女それぞれにジェンダー意識が形成されるようになります。「男は仕事」、「女は家庭」といった固定的性別役割分担意識の根本になっているとも言えますが、この意識は決して普遍的なものではなく、その時代の社会や文化によって左右されるものだと言われています。

アメリカの歴史学者ジョン・W・スコットは「男女という性別に意味を付与した知である」と言っています。つまり、「男だからこう」「女だからこう」しなくてはならない、すべきだ、の「だから」の部分と言います。「だからこうするものだ」という「だから」には根拠がないのです。

「男はこう、女はこう」と日常的に言われていることで不都合がないか、生まれた瞬間から死ぬまでずっとジェンダーにまみれて生きてい

くのは男性にも不都合がたくさんあります。また、区別と差別は違うということもよく聞かれますが、「いかなる場面においても性による排除、区別が差別につながる」と女性差別撤廃条約にあります。区別は差別の始まりで、これらはほとんど同義語といってもいいくらいです。

ジェンダーは根深い問題で、メディアの影響もあり、自分自身が内面化しているものもあります。紛らわしいのは「女には持って生まれた女としての特質・特性がある」などと言われる「特性論」です。特性という言葉が出てきたらそれはジェンダーで、社会生活を通じて構築されてきたものです。

講師の下村さんが足立区の全小中学校116校の校歌を調査し、「ジェンダーチェック」を試みたところ、「男はたくましく、女は優しく」と言い切っているもの5校、「僕も私も」と男が必ず前にくるもの14校、「僕」とか「僕ら」だけのもの5校、「我ら」という「僕ら」の古語を使用しているもの88校という結果でした。女子はどこへいったの？「僕ら」の「ら」の中に入っているのかということになります。

～いろいろな演習を通して見えるもの～

この回では漫画やいろいろな統計をもとに、演習を通して私たちのジェンダーチェックをしました。

特に漫画での演習では、知らず知らずに身についてしまっている「男は仕事、女は家庭」という刷り込みに気づかされました。

統計の結果からは「いかに性差別が根強く残っているか」ということを知らされることになりました。データを解析していくことで見えてくる問題に遭遇し、データの数字を読み解く力も必要だということを感じました。

私たちが生活している日常生活の中に、学びの材料はたくさんあると思います。

～女性たちはどう学び、行動していくか～

私たちはまず、女性がおかれた状況をきちんと知っておくことが大切です。そうすることで、自分の考え方、見方、社会的状況全体が把握できるようになります。女性がおかれた状況は多様ですが、その状況を知る努力が学ぶことにつながると思います。

女性に関する問題に気がついたら、自分の言葉で表現していくことを日常生活の中に取り入れていくことが大事です。一つの現状の背景にあるものを考え合わせられないと問題の核心に迫ることはできません。個別の現象とそれを生み出す背景を見通す力がつけば、誰でも性差別社会の問題点を問題として話すことができます。

記事担当者 《弘前じえんだあ学習グループ～きづき～》

弘前市が主催した「きらめき女性塾」を卒塾した3人で2006年4月結成。いつでも～きづき～を大事にしながら活動を続けていきたいと思っています。私たちが企画した連続講座の内容を3回にわたりレポートさせていただきます。「まなぼ」におつきあいくださりありがとうございました。（事務局 小森芳子）

Q. 結婚したら、パートナーには専業主婦になってほしいですか？（経済的に問題がなければ）

A. いいえ、特に理由はないけれど、2人とも働くのが当然という感じがな～。

Q. 女性がやった方がよいと思う家事はありますか？

A. 「金銭管理」かな。料理や洗濯、育児は自分もできると思うから。

Q. 父親も育児休業をすることができることを知っていますか？

A. 知りませんでした。

Q. 子どもが生まれたら育児休業をするつもりはありますか？

A. 今のところは自分が休業する確率はゼロ。でも、いろいろな条件が重なればありえるのかな～？

『育児休業』

詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください
<http://www.mhlw.go.jp/general/seido/koyou/ryouritu/index.html>

おとこの気持ち

聞いてみました



30代 団体職員 独身

インタビューを終えて

仕事も家事も2人で!!

この年代になると「男だから～、女だから～」という考えより「家事も仕事も2人でする」という考えに。夫婦で料理や洗濯、育児。ステキな関係だと思います。50代、40代、30代とインタビューをしてきましたが、年代ごとに考えが違い、もしかしたら、次の世代は『育児休業は夫婦で半分ずつ取るつもり』という回答になるかも…。ワクワク!!

KEI

平等？差別？区別？なに？

ある時、インターネットを見ていたら…

「お見合いパーティー」という文字が目に残って…

日時	〇月〇日〇時～
会場	〇〇ホテル
参加資格	男性：医師、歯科医、会社経営者、会社役員、弁護士、官公庁職員、年収600万以上 女性：—
対象年齢	男性：28～39歳 女性：26～37歳
料金	男性：5,000円 女性：1,000円（初参加は無料）

日時	×月×日×時～
会場	××プラザ 2F
参加資格	男性：大卒社会人 女性：—
対象年齢	男性：32～45歳 女性：30～42歳
料金	男性：5,000円 女性：500円

日時	△月△日△時～
会場	△プラザ 展望ラウンジ
参加資格	男性：大手企業or公務員or大卒or年収500万以上 女性：1人参加中心
対象年齢	男性：28～40歳 女性：27～39歳
料金	男性：6,000円 女性：無料と招待

条件が？



結婚相手は～

なにを重視？

Danseiの条件
キビシイニヤ～!



この「男と女の差」ってニヤンダー??
 パートナーを決める条件は何かニヤ?

さんかくひとごと

「農業や自然」の持つ力を実感してほしい



きゅうさんの畑 斉藤昌子さん

◆創遊農園「きゅうさんの畑」とは？

人と人のつながりを大切に考えた小さくてアットホームな農園です。農業体験や自然体験などを楽しんでもらったり、のんびりゆったり過ごしてもらいための畑です。季節ごとにいろいろな果物や野菜が収穫でき、夏・秋はもちろん、冬・春も畑仕事や料理、クラフトなどを楽しめます。車イスでも農業体験ができるように農地を整備してあります。また、これま

◆今後の抱負は？

これからも、ユニバーサルデザイン農園として、多くの方に知ってもらい楽しんでもらいたいです。また、要望の多い無農薬、有機栽培にも挑戦したいと思っています。夢は、キッチンをついた移動販売車を準備して、農園で採れた材料を使い、農園の中にレストランを開くことです。

◆会員や仲間の募集は？

「けやぐんどの会」という会があり、個人、ファミリー会員を募集しています。



自分たちで採った野菜を使って手づくりピザ。おいしいね～！

夫と二人で、これからずっと農業を続けていくんだなと思ったとき、どうせやるなら楽しくやれる農業にしたいなと思っていました。ちょうどその頃、弘前市で主催した「ひろさき創生塾」に参加し、まちづくりや地域の活性化のための企画を立案し、実行する勉強をしたのがきっかけです。自分の住んでいる所を考えるようにと指導を受け、家業である農業を活性化することを考えました。「農村のまちづくりⅡグリーン・ツーリズム※」と考え、誰でも楽しめ、繰り返し訪れたいような農業体験を研究し企画する機会となったのです。



『アロマおとめ』は、25～50gのミニりんご。おいしいですよ。

『きゅうさんの畑』で体験できるメニュー

- *果物収穫体験
 - *農作業体験
 - *薪わり体験
 - *夏休みアウトドア体験
 - *電気水道無しのサバイバルキャンプ
 - *石窯でピザ作り
 - *園芸療法（バリアフリーの畑で車イスに対応）
 - *押花アレンジ（講師：石戸谷正子さんの指導によりはがきなどを作製。当情報紙表紙で作品を紹介しています）
- ほかにもいろいろ・・・

※のんびりと自然の風景を楽しんだり、田んぼや畑や海辺の作業を体験したり、郷土料理を味わい土地の人たちと交流するなど、豊かな自然や素朴であたたかい人間関係が残っている農山漁村でゆっくり過ごす余暇のこと。
（参考：あおもりカムカム農山漁村ネットワークホームページより）

募集しています。入会すると1年中何回でも畑に来て、果物や野菜を収穫したり、農作業体験ができます。また、グリーン・ツーリズムや農業に興味がある方は連絡をください。



食べることは生きるためのもと！
「農」を通して、感じてほしい

【お問い合わせ先】 創遊農園「きゅうさんの畑」
〒036-1202 弘前市大字十面沢字大面 35-42
Tel・Fax 0172-93-2567
ホームページ <http://www15.ocn.ne.jp/~q3farm/>
E-mail saito93@eos.ocn.jp

「きゅうさんの畑」の収穫物を一部紹介
果物（りんご数種、梅、さくらんぼ、ブルーベリー、桃、シュガーブルー、栗、梨、ぶどう、房すぐりなど）。ハーブ和洋40種。野菜（きゅうり、フルーツトマトほか）。



子どもと大人が一緒に楽しむ和やかな場です

囲碁は四千年前からの教育用具

《ウィークエンド 囲碁クラブ》

平成14年、公立学校に学校週5日制が導入された時、休日の児童生徒の受入先、一端として、市教育委員会生涯学習課の音頭で、ウィークエンド子どもクラブの事業が開始された。囲碁は、四千年の昔、古代中国の聖王がその子の教育用具として開発したものとされている。また昔から

弘前市民参画センター利用団体紹介

琴棋書画の一つとして、ゆとりある者の教養とされてきた。さらに近年、右脳左脳の総合的開発に有効であるという研究も発表されたりして、いまや世界的頭脳ゲームとなっている。この囲碁を、少しでも子どものために役立てることが出来ればということで、ウィークエンド囲碁クラブを立ち上げた。以来活動を続けて6年も過ぎた。この間、子どもたちは八十余名が去来したが、現在は、毎月第1と第3土曜日の午前、毎回十数

名の参加を得て活動している。この弘前市民参画センターは、市の中央に位置しているため、市内各小中学校から学年も異なる子どもたちが集まってくるが、囲碁という切り口では、年少者が強いと評価されることも少なくない。極端に言えば小学生が大人に勝つこともよくあることである。そのためか、子どもたちは、日頃の学校では体験できないことを体験して、いきいきとして活動している。今年度は、文化庁の事業である

「伝統文化こども教室」に参加申請して承認され、用具などの整備を行ってきた。従来、会場費捻出のため、子どもたちから一回百円を徴収していたが、現在は、無料で行っている。今以上の子どもたちの参加を募集している。とともに、指導者スタッフとして高齢者の参加も募集中である。子どもとお年寄りが一緒に楽しむ和やかな場が広がれば素晴らしいですね。

文責 主宰・宮崎隆司

センター利用者に突撃インタビュー

大学生・男子2名

◎どのような職業に進むつもりですか？

★・☆ 医師

◎結婚は何歳ぐらいにしたいですか？

★ 35歳～40歳

☆一人前になったと思ったら。

◎「女は家庭、男は仕事」という考えをどう思いますか？

★前近代的な考え方だと思います。男が家事をして、女が働くという形もまた、存在すると思います。家庭も仕事も適材適所でいいと思います。

☆古い考えだと思いますが、現在でも根底にある考え方だと思っています。しかし、女性でバリバリ仕事をしている人もいますし、少しずつボーダレスになっているのではないのでしょうか。

◎あなたの周りは男女平等だと思いますか？

★男女平等が理想と言いつつも、まだまだ平等とは言えないと思います。そもそも今日の社会は、男性にとって都合のいいように成り立っておりますから…。

☆思いません。男性ができないことで女性ができること（妊娠など）もあります。また、その逆もあります。さらに、男性の方が得意なことや、女性の方が得意なこともあります。それぞれが不得意な点を補いあえばよいのではないのでしょうか。

◎当センターに要望などありますか？

★現在、大学の自習室が工事中であるため思うように席が確保できず、こちらを利用させていただくようになりました。望みがあるとすれば、利用される団体がなければ、3階も開放して頂きたいです。



「家庭も仕事も適材適所」、「男女で不得意な点を補い合う」なんて理想的!! 男も女もバリバリ、いきいき活動できる社会を推進せねば。 by Imo

パートタイム労働法が改正されます

ー平成 20 年 4 月 1 日施行ー

パートタイムという働き方を選んだ労働者が、その能力を有効に発揮することができる雇用環境を一層整備するため、パートタイム労働法が改正されます。

「短時間労働者の雇用管理の改善等に関する法律」

パートタイム労働者を 1 人でも雇っている事業主の方へ

改正のポイント

1. 一定の労働条件について明示義務が追加されます。
2. 労働者の求めに応じて、待遇の決定に当たって考慮した事項を説明することが義務化されます。
3. パート労働者の働き方に応じて、均衡のとれた待遇の確保が求められます。
4. 正社員への転換を推進するため何らかの措置を講じることが義務化されます。
5. パート労働者からの苦情の申し出に対応することが求められます。

パートタイム労働法の対象となる
「パートタイム労働者」とは

「パート、パートタイマー、アルバイト、嘱託、契約社員、準社員」などの呼称にかかわらず、1 週間の所定労働時間が、同一の事業所に雇用される通常の労働者に比べて短い労働者を言います。

改正パートタイム労働法関係資料は
厚生労働省ホームページをご覧ください

<http://www.mhlw.go.jp/topics/2007/06/tp0605-1.html>

弘前市民参画センター

〒 036-8355 弘前市大字元寺町 1-13

TEL 0172-31-2500

FAX 0172-36-1822

開館時間 9:00 ~ 22:00

休館日 12 月 28 日 ~ 1 月 3 日

http://www.city.hirosaki.aomori.jp/gaiyo/shisetsu/kyouiku/htm_sankaku/framepage.htm

本の紹介

タイトル

**苦しみの中でも
幸せは見つかる**

著者 小澤竹俊
発行 扶桑社



すべての「苦しんでいる人」へ

ボランティア先の施設で見つけた本。著者はホスピス病棟の勤務医を経て、現在は在宅療養支援診療所で在宅の患者さんとその家族を支える医師である。だからと言って、残された命が限られた人たちのために書かれた本ではない。ページをめくると『すべての「苦しんでいる人」へ』という文字が飛び込んでくる。小さい苦しみから大きな苦しみまで、人はみな苦しみをかかえながら生きている。

どうして苦しみをを感じるのだろうか? 「こうなりたい、こうなればいい」という気持ちと現状のギャップが苦しみなのだ著者は述べ、「苦しみとは希望と現実のギャップ」と定義づけている。このギャップが少なくなると苦しみがやわらぐという。

TVドラマ「僕の生きる道」を例にあげながら、「命が限られる」という苦しみの中でも人は強く生き続けることができると、いろいろなシーンを追って紹介している。そこには人との関係性が見えてくる。人はひとりでは生きていけないと痛感させられる。

「苦しみ」の中でも生きていけるヒントがきっと見つかるのではないだろうか。先日、小澤医師の活動がテレビ放送されていたのを見ることができた。末期がんの患者さんとその家族それぞれの苦しみに向き合い対話を続ける姿がとても印象的だった。 ※参画センターの蔵書になっています。

by komori

編集後記

長かった冬も、ようやく終わりを迎えようとしています。翌朝の雪かきの心配をせずに、ゆっくり眠れる幸せを実感できる季節です。雪をめぐるいろいろな問題から解放されて、身も心も軽く新しいスタート地点へ。色彩豊かな津軽の春がやってきます。(CON)

